

景観まちづくりフォーラム

歴史の中の里山とローカル鉄道

2017年2月11日(土) 9:15~15:45

集合場所 市原市立内田小学校(車の方) 小湊鐵道上総牛久駅(列車の方)

定員 100名(申込先着順)※歩きやすい服装で参加ください。

参加費 500円(昼食・ジビエカレー代)

<プログラム>

集合～古道散策・見学～昼食・ジビエカレー(内田未来楽校にて)～
活動報告・パネルディスカッション(里山トロッコ列車見学は希望者のみ)

◆申込み・問い合わせ
<景観まちづくり
千葉協議会事務局団体>
NPOクラブ
(下記までご連絡を)

平成28年度 福島県ふくしまふるさと交流・相談支援事業 ～実際の電話相談の現場から～

「被災者支援のこれからを考える」

東日本大震災後6年目をむかえようとする今、電話相談「広域避難者専用ライン・よりそいホットライン」に寄せられる、相談内容の傾向から、今後必要とされる支援のあり方を皆さんと考えます。

日時: 平成29年1月26日(木) 13:30~15:30

会場: 千葉市民会館
第1、2会議室
(千葉市中央区要町1-1)

定員: 50名 参加費: 無料

講師: 澤上幸子さん
NPO法人えひめ311
副代表兼事務局長



ご自身が被災当事者で、震災後、NPO法人えひめ311を立ち上げ、避難者支援・交流会など企画・実施。「よりそいホットライン」の電話相談にも関わっています。

◆お問合せ・申込み: NPOクラブ
(下記までご連絡ください)

<編集・発行>

特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ) TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689
〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 E-mail npo-club@par.odn.ne.jp URL http://npoclub.com/
団体会員51団体 個人会員100人 発行1,000部 会員・県内市民活動センター・自治体等に送付しています。

<<地域づくりサロン>>

「地域で支える高齢化の時代」

5年先・10年先にむけて、今始めるべきこと

高齢化の時代を迎え、地域で出来ることや課題など、これからの地域づくりに必要な事についてお話を伺います。

四街道市の拡大自治会情報交換会を、一般公開します。どなたでもご参加いただけます。事前にお申込みください。

日時: 平成29年1月30日(月) 13:30~16:30

会場: 四街道市文化センター
301号室
(四街道市大日396)

参加費: 無料

講師: 川北秀人さん

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者
兼「ソシオ・マネジメント」発行人

NPO・市民団体と行政との協働の基盤づくりを進め、毎年約60の自治体で、職員や市民との合同研修を担当。

◆お問合せ・申込み:
四街道市みんな地域づくりセンター(文化センター1階)
TEL 043-304-7065 FAX 043-422-7051



特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

あなたの団体は、どのように見えていますか？

団体の活動は継続しているのに・・・

あなたの団体に興味を持ち、インターネットで検索してみたら、ブログは更新が長く止まったまま、ホームページは情報が古く、不具合があり団体の様子がよくわからないといったことが、もしあったら、それを、初めて目にした人には、どう映るでしょう？

また、検索しても何の情報も得られなかったら、実績もあり、熱心に活動しているにもかかわらず、活動停止しているように受け取られ、信頼は得にくく、とても残念なことです。

団体情報の窓口としてのインターネット

総務省の情報通信白書によると、時事情報を「いち早く」得る手段として、テレビに次いで多くの年代でインターネットが選択されており、また、趣味や娯楽といった個人的な情報ではインターネットを使って情報を得ている人が最も多いという現状がよくわかります。(下のグラフ参照)

インターネットによる情報の発信は、団体にとっても、外部との窓口になります。助成金審査でも、日々の活動をブログなどで確認するといいます。団体のいきいきした日々の活動を伝えると同時に、信頼を得るため、事業報告や財務状況などの確かな情報を発信していきたいものです。

将来を見ずしてインターネット活用を

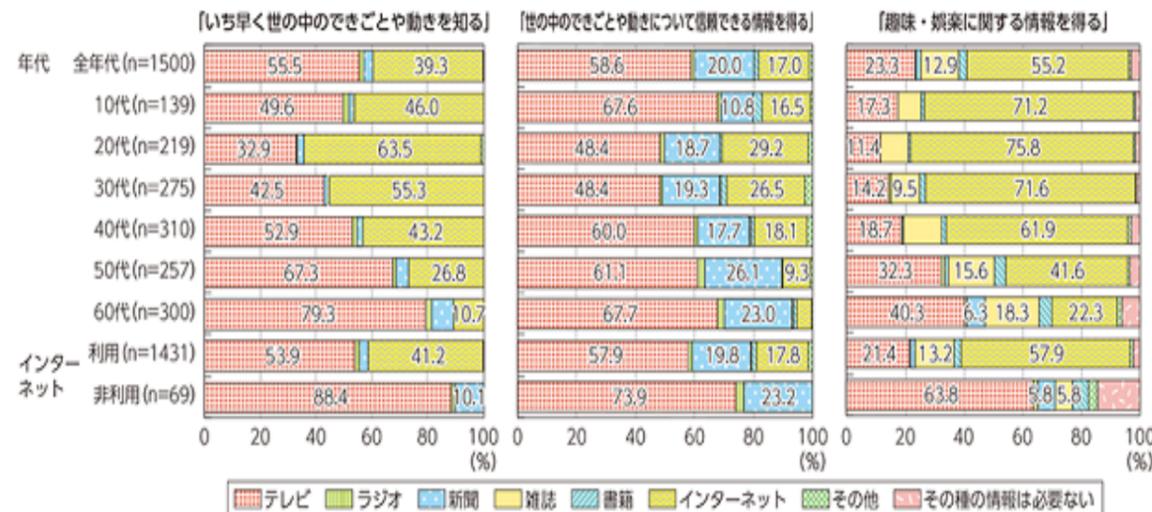
テクノロジーの進化は、加速度的に進むことが予想され、2010年時のデジタルデータ量は2020年には約40倍に増加すると言われています。会報やチラシ・パンフレットといった紙の媒体ももちろん大切ですが、インターネットでの発信は今後避けられないでしょう。また、情報を届けたい相手によって、Facebookやtwitterなど様々な方法を使う工夫が、団体に新しい展開をもたらすかもしれません。

NPOクラブのICT支援

NPOクラブでは、団体情報発信や決算報告書作成の講座などを開催し、情報開示のサポートをしています。新しく始められる方のハードルを少しでも下げたいからです。また「ちばNPO情報館」を管理し、団体情報の更新を促し、信頼度を保っています。

また、ホームページ・ブログ作成やSNS開設などIT関連を含めたNPO・市民活動団体の広報支援も行っています。どうぞご相談ください。

40代より若い層は特に、インターネットの利用率が高いですね。



総務省
情報通信政策研究所
目次別利用メディア(平成二十七年)

CANPAN データベースを使って アクセスの多いサイトで情報発信

NPO クラブが管理している「ちば NPO 情報館」の母体ともなっている CANPAN サイト。日本財団と NPO 法人 CANPAN センターが合同で実施する、民間主体のより豊かな社会づくりに貢献することを目指すソーシャルプロジェクトのひとつとして開設されました。公益団体のための CANPAN サイトを、団体活動により役立てられるよう、日本財団 CANPAN の吉野真佐代さんを講師に迎えて、11/17 に「団体情報発信&ブログ使いこなし講座」を開催しました。サイトの特徴や活用のメリットなどを、講座内容から紹介します。

講座ポイント紹介

1. CANPAN 活用の3つのポイント

①スマホ対応・キーワード検索が可能で、運用性が高い

⇒CANPAN ブログで活動記録を残すと、検索もできる

- ・広告が入らない CANPAN ブログはおすすめ！
- ・団体登録することで、無料でブログが作れる

②ネット上の人が集まる場所で情報発信できる

⇒団体情報データベースの豊富な情報量・閲覧数

- ・支援者が知りたい情報開示項目を網羅
- ・まっとうな団体ブログが多く集まるサイトで、信憑性が高い

③Yahoo!ボランティア(閲覧数が多い!)が活用できる

⇒CANPAN トピックス掲載から自動連携し、見られる率が高まる！(イベント・セミナーの告知やボランティア募集などに便利)

2. 団体情報の情報量・アクセスの多さ

- ・ページ閲覧数(PV) 205 万 PV/月
- ・サイト訪問者数(VISIT) 93 万人/月
- ・登録ユーザー数 45,245 人
1 年に約 3,000 ユーザー増える
- ・団体登録数 13,038 団体
(3 年更新なしを含むと 22,337 団体)

3. 団体情報データベースの特徴

- ・団体の組織情報の開示に特化
⇒登録した情報量に応じて情報開示度レベルを★の数でわかりやすく提示
- ・助成金申請書の団体情報を参考にした入力項目
⇒登録項目は、国内助成プログラムに共通する 8 割の項目を中心に構成。行政提出向けの標準開示フォーマットも利用可能
- ・法人格を問わず無料で利用可能
- ・アクセス数は右肩上がり
- ・Web 検索で見つけてもらいやすい
⇒情報を更新すると検索上位にあがる

4. 助成制度データベースの便宜性

- ・全国規模の助成プログラムや省庁の企画公募を掲載
- ・ほぼリアルタイム更新
- ・申請時期や助成金額で検索可 (NPO 向けは唯一！)



実際に入力作業をしながら、それぞれ抱えている問題がクリアになれば、情報開示のハードルも下がりますね。

<http://fields.canpan.info/>
から CANPAN サイトに入れます。

「ちばNPO情報館」で信頼度UP↑

NPO クラブは、地域課題解決のためには、団体同士あるいは自治体や企業との連携・協働が必要だと考えています。CANPAN 登録団体のうち、千葉県内で活動している情報開示レベル★3 つ以上の団体であることを条件に、「ちば NPO 情報館」の登録をすすめ、書類の現物確認を毎年することで、信頼を担保しています。



ちばNPO情報館

の登録団体のメリット

『ちば NPO 情報館』へは、NPO クラブホームページのこのマークをクリック！登録は随時受け付けています。

- 1、認証の「かめマーク」は、信頼できる団体の証として、市民や自治体・企業に信頼度をわかりやすく示します。
- 2、市民や自治体・企業・マスコミからの問い合わせや要請を団体に繋いだり、NPO クラブが関わる協働事業やイベントの協力要請など、双方向で情報のやり取りができます。
- 3、NPO や市民活動団体にとって必要な知識を得るための講座案内など、NPO クラブが発信する千葉県内の情報を受け取ることができます。(決算報告書作成講座や団体情報発信・ブログ講座、マイナンバー講座など)

「四街道市みんなで地域づくりセンター」の広報戦略

～ 広報は発信して、発信して、発信することがすべて

四街道市みんなで地域づくりセンターが広報のために使っているツールは、ホームページ、ブログ、Facebook、twitter、そして紙によるチラシや広報誌などの発信です。

その広報の方法は、コーディネーターが全員で広報に関わること。センターでは、イベントなどを行うことが決まると、まずはチラシ作りから始まります。そのチラシに沿ってホームページでの告知が始まり、準備の様子やイベントに関連するトピックスを Facebook で当日まで数回発信し拡散します。イベント当日は twitter で告知をし、Facebook で今の様子を写真付きで発信します。さらにイベント終了後は当日の内容を詳しく書き、写真も合わせてブログにまとめます。そしてそのブログを Facebook でシェアして終了です。

広報は、発信して発信して発信することがすべて。そのためには、広報担当だけが発信を行うのではなく、スタッフ全員が自分で担当した取り組みを発信することで、なるべく多くの視点で数多く発信し、拡散することを心がけています。届けたい相手に合わせて、手を変え品を変え発信を続けていき、必要な情報を必要としている人に届けられたらと思います。

NPO クラブは、四街道市から「みんなで地域づくりセンター」の地域づくりコーディネーター業務を受託しています。Facebook や twitter を使うことでイベントの申込みが容易になると同時に、新規層への告知も可能になり、定員を超えるイベント応募者があるなど広報の効果が出てきています。SNS で拡散し、リアルタイムな情報を出しながら HP の確かな情報に誘導し、ブログには活動記録として残すなど、それぞれの媒体の特性を生かして効果的に広報を行っています。また、「学生ボランティア募集サイト」を活用するといった新しい試みも行い、大学生インターンシップの応募者を多数得るという結果を出しています。

四街道市みんなで地域づくりセンター <http://minnade.org/>

